

白石小屋は戦時中気象方の観測所として建てられ昭和24年に廃止されたため山小屋に改築した。

二、鎖 46m
三、鎖 60m

天狗地蔵がかわいい



成就より3km
小屋より4km

落石注意区間
上を見れば断崖絶壁

白石小屋
北壁
三の鎖

天狗岳
1974m

天狗岳
1982m

南尖峰

天狗岳をはじめ天狗森、天狗の森、天狗塚など天狗の名と称する山名が数多くありと調べていると

天狗は山中の荒ぶる神霊で、仏教や外法とこれ、室町時代に修験者の異形となり、烏天狗や鼻高天狗など異形の者に表象され、名だたる山には天狗が住むといわれる。「日本の山の精神史、開山伝承と縁起の世界」

西日本ではこより高い場所はない!!

めった、こわい。

うんと慎重に行かんといひでキケン!!

そぞり立つ天狗岳

そぞり立つ天狗岳

石鎚山

土小屋コース

南斜面の深い森林が、もばらして息を呑む。モミ、ツガ、ブナ、クヌギ、シラカバ、森林生態系保護地域に指定されている。

雲が流れて光がさして心も晴れて山はえいほあふ

東後基部広場

山頂へ2.0km

写真を撮って遊めい石鎚山

かっこいい
思わずみとれる

古くから修験道の山として信仰されてきたが、これは農耕神の性格をもち、季節ごとの山の姿の変化を見て農作業の時期を判断し、豊作を祈り、時には雨乞いも行われた。また、除災神の性格もち、参拝して五臓草履と祈ることによって病気を治癒を祈願したり、虫よけのまじないにシラカバを持ち下り、修験者だけでなく農家、農民の間にも石鎚山信仰は広く定着していた。

標高1,500mを越える

石鎚山が姿を現わす

石鎚山へ30km

こんな標高の高い森には、ブナやクヌギ、カシ、ナラなどの落葉広葉樹が、腐葉土を堆積させている。水源地の森には、川を流す水と、落ち葉一枚がこぼれ落ちると、自然は神秘的な魅力。

鶴子の頭 1637.5m

土小屋から山頂への標高はちょうど500m。

石鎚山の成り立ちは約1500年前に火山活動により噴出した火山流堆積物でできていて、当時は直径8キロに及ぶ巨大カルデラができた規模なものだった。カルデラ内部にできた硬い安山岩が長い年月をかけて風化、浸食、隆起を経て、残ったもとも高いところが1982mの天狗岳であるという。

標高1982m。西日本最高峰であり、古くから信仰の霊山として崇められてきた石鎚山。切り立った岩肌と豊かな自然が織りなす美しい世界はたくさんの人を魅了し続けている。岩壁を四方に配して、圧倒的な高さで迫力どこから眺めても「石鎚山」という存在感で堂々と立ち上がっている。どんな方角から見ても美しい姿を思わす手を合わせたくなる。今回は石鎚山の東向かいの薙ヶ森から、笹原の向こうに、北壁を前面にした山容を拝むことができた。気高く、凜として神々しい山並に感激する。さっと神々が住むのはこんな世界だろうなと思える絶景だ。



瀬戸内海もちらちらと望める

登山道はなだらかで歩きやすい

石鎚山系の山々は神々しく神秘に満ちている。山に登り、空を見上げ、遠くの山並や海を眺める、清らかな時間の軌、何かわからないけれど、何かを伝えてくれる語りかけを、心のうちに聴くことができるのかもしれない。

薙ヶ森や子持権現山が見える

土小屋の標高は1492m
1492m 伊予国「伊予国」

カゴ

アサハカゴ

ギザギザや切れ込みや置かあたり、葉っぱは実に夕顔の様な形をしている。風に揺れるため、光と下の葉に届けるため、CO2を多くとりこむために空気の流れを調整しているらしい。

石鎚神社
土小屋遷拜殿

登山口
山頂へ4.6km

土小屋

石鎚山
1970年に開通